

「くまもと景観賞」について

景観は眼にうつる環境とも言われています。

緑にあふれ、地域の文化や伝統を感じさせる美しい街並み景観や田園景観は訪れる人の共感を誘うとともに、そこに住む人にも我が町・ふるさとへの愛着をますます高めます。

“くまもと景観賞”は、私たちの郷土＝熊本が緑と潤いに満ちた美しい県土となるよう、良好な景観形成に大きく貢献している人々の功績を広く顕彰することを目的としています。

募集要項

1 表彰の対象

熊本県内において、良好な景観形成に大きく貢献している個人もしくは団体を表彰します。

具体的には、次のようなものを対象とします。

- 地域の歴史、生活文化、自然などを活用した景観
- 地域住民、企業、行政それぞれの参加と協力で創出された景観
- 地域に潤いと安らぎを与える景観
- 地域に新たな魅力をもたらす景観
- 地域景観を向上させる広告・サイン・案内板等
- その他優れた景観形成に寄与しているもの

2 応募資格

自薦・他薦を問わずどなたでも応募できます。

(他薦の場合、被推薦者の承認を得た上で応募してください。)

3 応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、写真貼付のうえ、熊本県都市計画課景観公園室、最寄りの広域本部又は地域振興局景観担当課に提出してください。(郵送可)

メールでの応募も可。(但し、受信制限があるので4MB以下)

Eメール:kumamotokeikanshou@pref.kumamoto.lg.jp

4 募集期間

平成26年7月1日(火)～平成26年8月8日(金)

5 選考方法

くまもと景観賞審査委員会を設け審査します。

- 一次審査 書類審査
- 二次審査 現地審査

■審査委員長

植田 宏 国立大学法人 熊本大学大学院
自然科学研究科准教授

■審査委員

伊東 龍一 国立大学法人 熊本大学大学院
自然科学研究科教授

太田 リカ グラフィックデザイナー

薛 孝夫 学校法人 西日本短期大学
緑地環境学科特任教授

原 幸代子 熊本県文化協会専務理事

吉村 尚子 株式会社 風土 & フードデザイン YOSHIMURA
代表取締役/プランナー

※五十音順

6 発表・表彰

表彰式は、平成27年2月(予定)

受賞者には、12月末までに連絡します。

過去の受賞作品はHPでご覧ください。

[くまもと景観賞の紹介です](#) [検索](#)

昨年(第26回)の受賞作品

くまもと景観賞

(山鹿市) さくら湯

細川忠利公の御茶屋として寛永17年(1640)に建立後、幾度の改修と増築を経て解体。平成24年に古写真や山鹿灯笼の模型を基に復元された。木造伝統工法を基本に、唐破風の鬼瓦など以前のものを活用している。

(大津町) 中九州クボタ本社・物流センター

3棟からなる複合施設である。高さを抑え、九州の自然素材を使った外観、建物への既存杉林の景観の取り込み、低い土手と植栽による敷地境界の扱い等で、周辺の自然環境との良好な関係を取り結ぶことに成功している。

部門賞 地域景観賞



(菊池市) 憩いの森公園

周辺住宅地域のまちづくり拠点として計画された近隣公園。泗水の台地景観をモチーフとした大らかな起伏を有する。ワークショップを行い、地域の要望や気候風土・歴史性に配慮している。地域に愛される公園となるだろう。

部門賞 緑と水の景観賞



(水俣市) 湯の児地区公園

湯の児チェリーラインの大崎鼻から湯の児島までの4箇所公園が、立地と役割の違いを持ちながらもデザインに共通性を感じられる、一連のものとして再整備された。地域の景観づくりという観点から高く評価される。



(球磨村) 球磨村三ヶ浦地区

緩やかな斜面に梨園と棚田が広がり、縦横に張り巡らされた水路「毎床溝」が農地を潤している。先人の血と汗と涙の歴史を大切に住民総力の取り組みが新たなむらづくり、景観形成の原動力になっている。